

平成26年度第1四半期業績説明資料

平成26年7月

株式会社 ナガワ



平成26年度第1四半期の概況

1. 建設市場全般

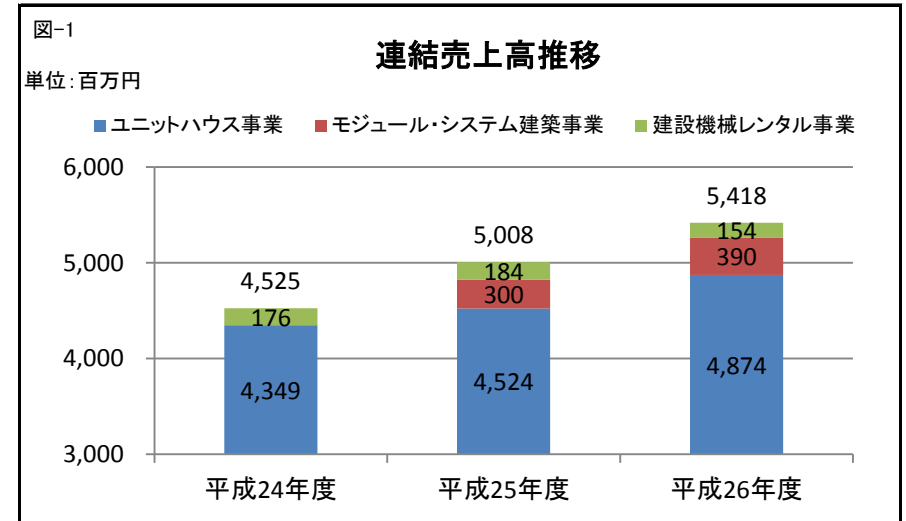
住宅投資が増税による反動減で大幅に落ち込むものの、堅調な民間設備投資や補正予算の執行に伴う公共工事の増加に支えられ、概ね好調を維持。

住宅着工戸数→3月から3ヶ月連続の前年割れ(増税前駆け込み需要の反動減)
 民間建築(非居住用)→5月 2ヶ月ぶりに前年同月割れ
 公共工事(大手50社調査)→5月 14ヶ月連続前年同月比プラス
 (補正予算執行効果継続)

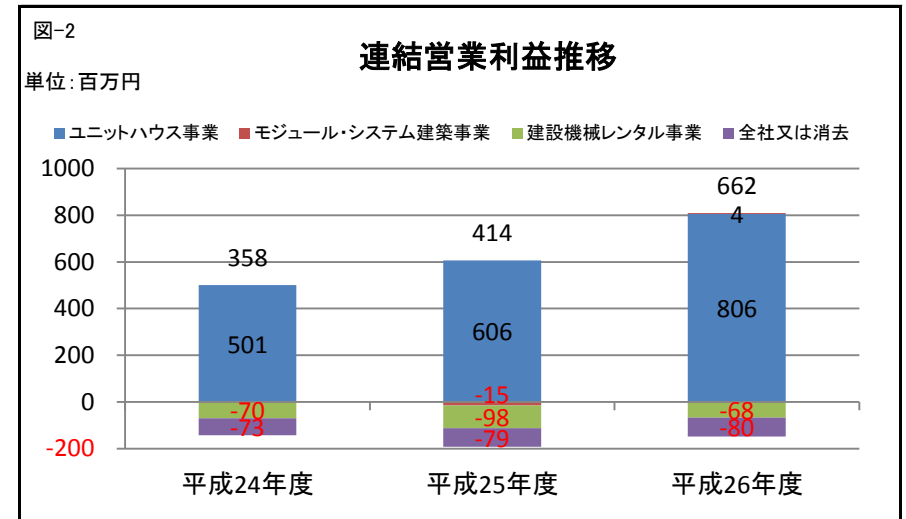
(いずれも国土交通省統計資料より)

2. 第1四半期の主な取り組み

1. モジュール・システム建築受注強化
2. 全国一斉中古販売キャンペーン実施(5・6月)
3. 京都工場・仙台工場増改築工事着工(6月)
4. 海外事業強化(営業強化)
5. 業務効率推進
 - ① 4月 請求業務の電子化
 - ② 5月 クラウドサーバー切り換え(システム運用費削減)
 - ③ 7月 ファクタリング支払いから現金支払い一本化



注)平成24年度のモジュール・システム建築事業の売上高は、ユニットハウス事業に含まれております。

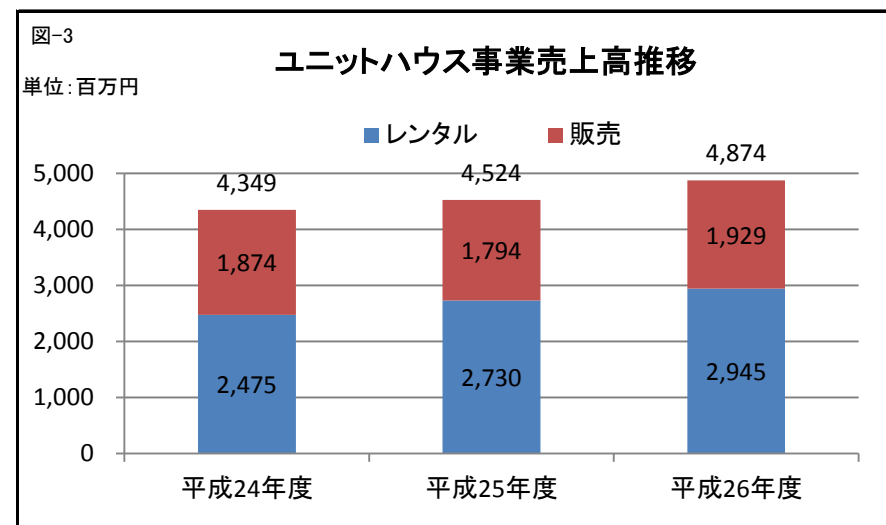


注)平成24年度のモジュール・システム建築事業の営業利益は、ユニットハウス事業に含まれております。

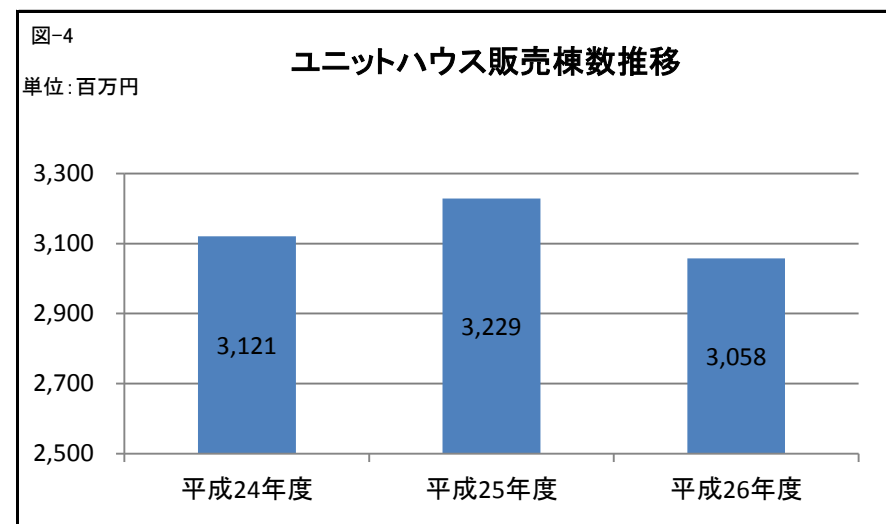
3. ユニットハウス事業

(1) 販売

新棟販売・中古販売とも消費税引き上げの駆け込み需要の反動で4～5月は展示場販売が低調だったが、6月はキャンペーンの実施効果もあり、高額品を中心に回復の兆しが出てきた。

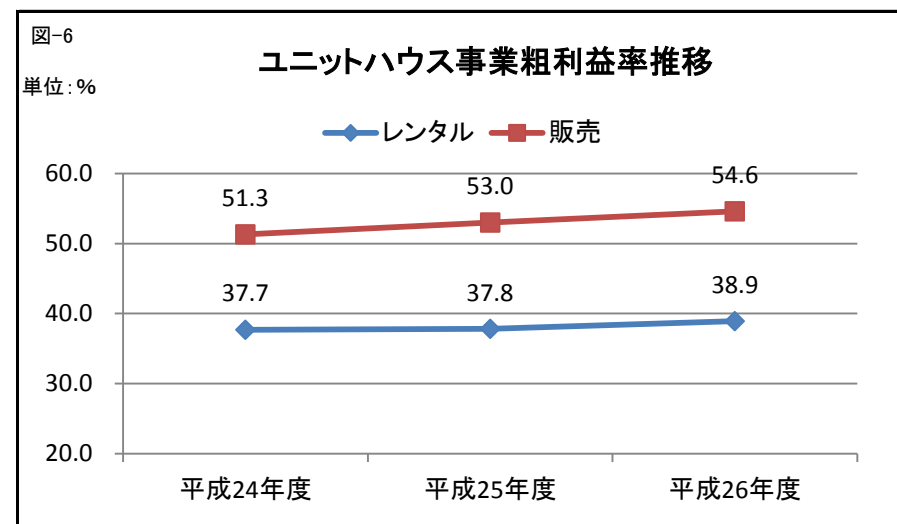
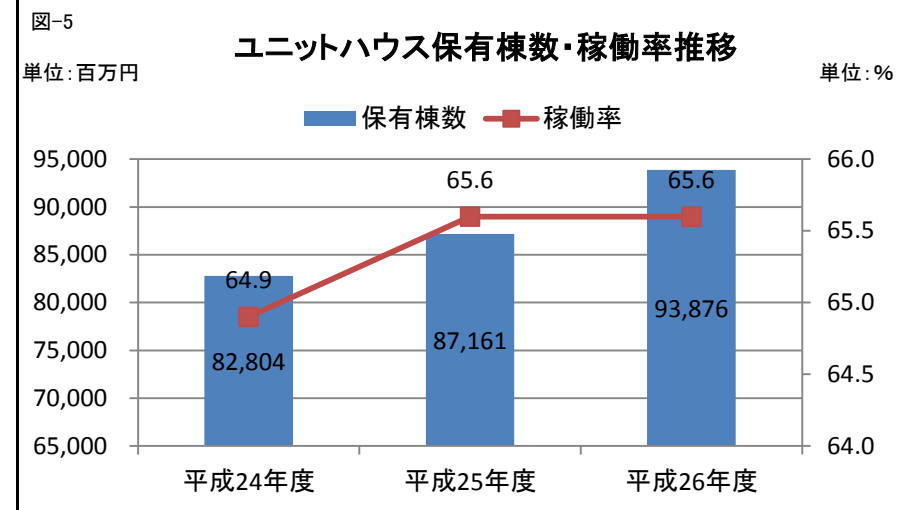


注) 平成24年度の売上高にはモジュール・システム建築の売上高が含まれております。



(2) レンタル

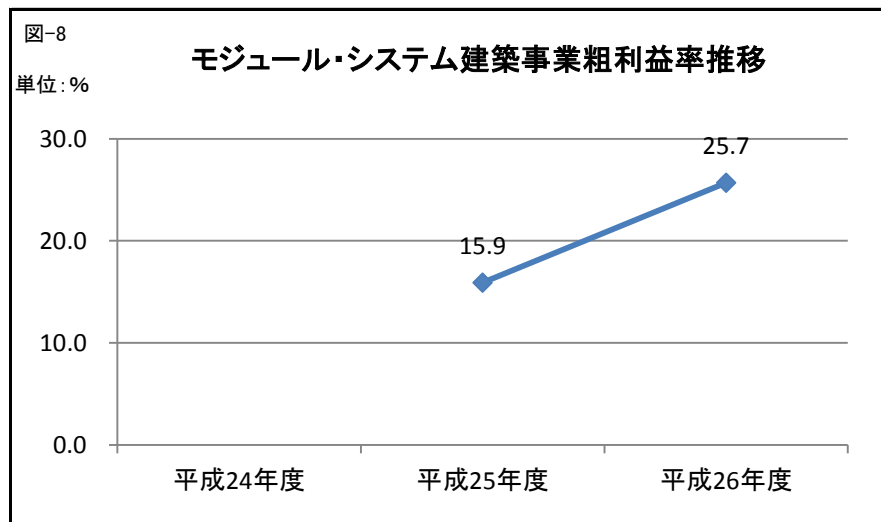
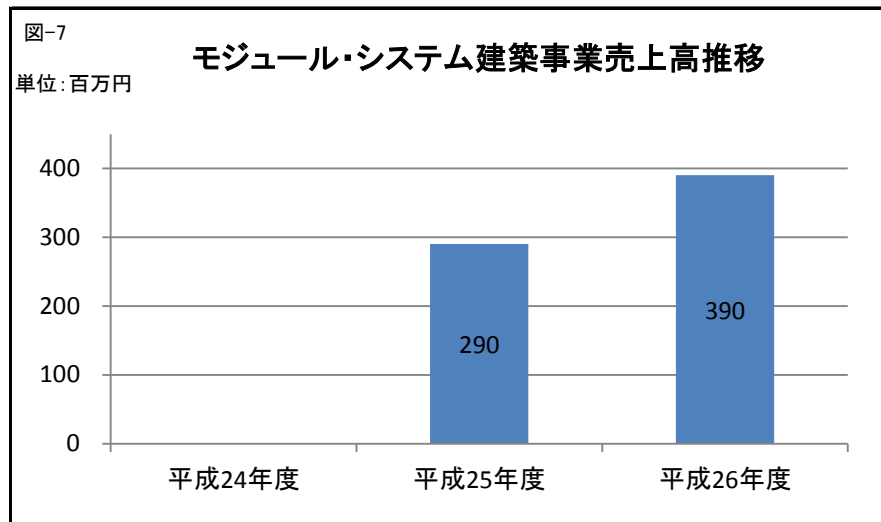
稼働棟数は引き続き好調に推移しており、単価も底固い。保有棟数は引き続き増加し償却負担が増えているが、償却済資産がさらに増加したことから、粗利益率は改善した。



注) 平成24年度の粗利益率にはモジュール・システム建築事業が含まれております。

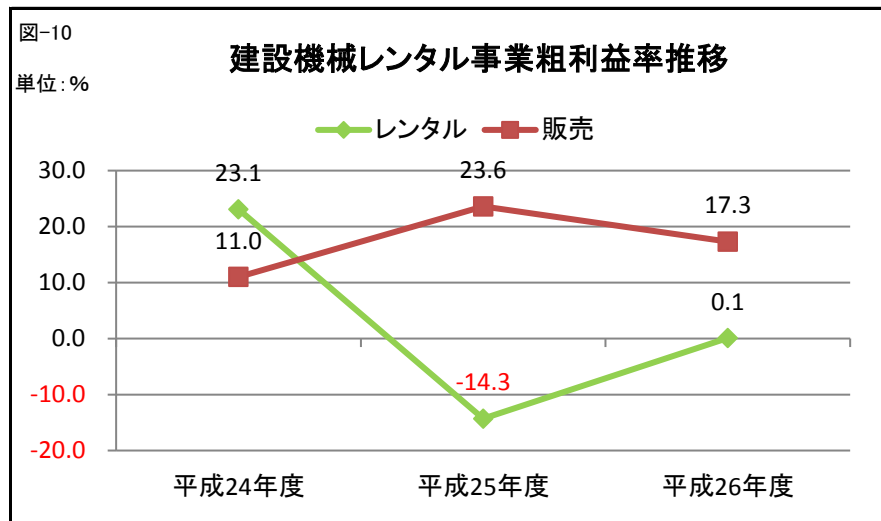
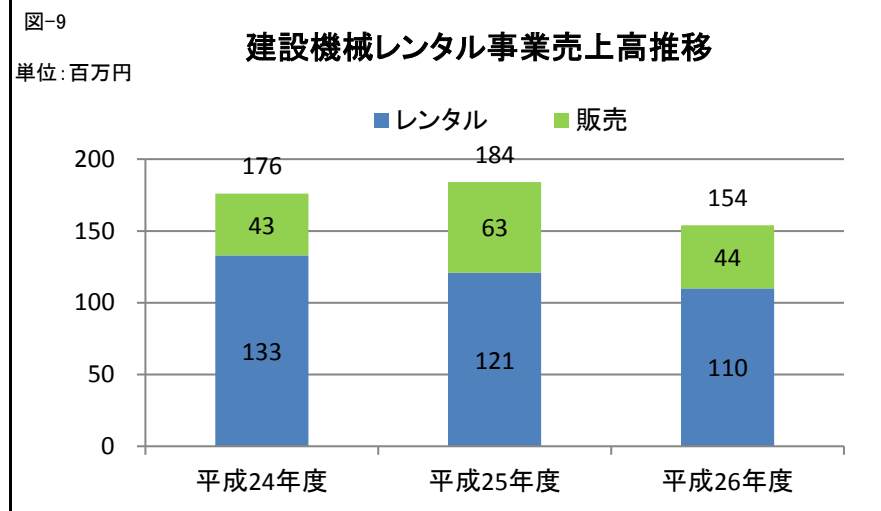
4. モジュール・システム建築事業

積極的な営業活動と短納期・低コストがお客様の支持を受け、工場や倉庫用途向けに順調に拡大。



5. 建設機械レンタル事業

北海道内の建築工事受注が公共予算の執行遅れなどから今年2月から5月にかけて前年割れが続いており(国土交通省建築工事受注動態統計調査より)、建機レンタル受注は期初から低迷を続けている。ただ、昨年で建設機械の投資平準化が一巡したため、償却負担が減少し、赤字幅は縮小。



6. 投資設備

貸与ハウス投資は前年同期比10%増と強いが、貸与機械投資は前期で平準化投資が一服したことにより大幅減となる。

これに伴い、貸与機械の減価償却費も山を越え減少。貸与ハウスは引き続き償却負担は増加傾向だが、全体としては横這い。

6月から京都工場・仙台工場の増改築工事着工。



図-11

単位:百万円

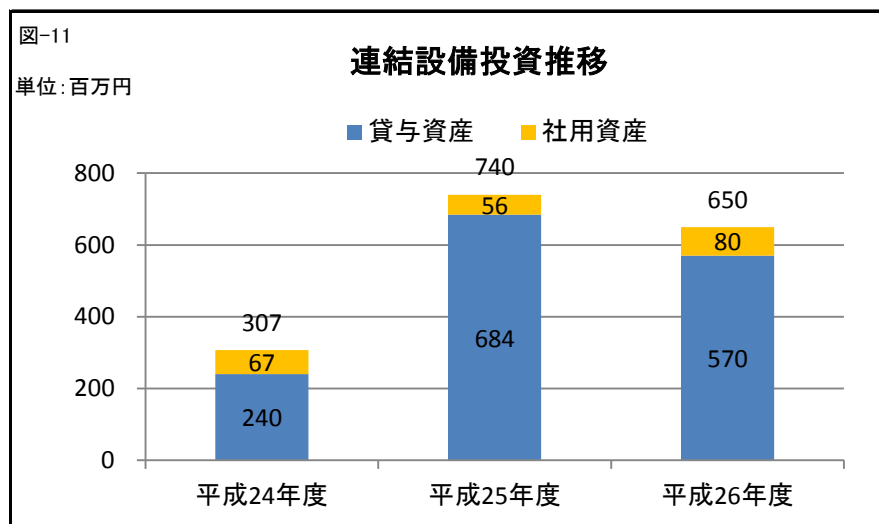


図-12

単位:百万円

